

令和 6 年度第 2 回松江市総合教育会議議事録

日時：令和 7 年 2 月 13 日（木）9：15～

場所：揖屋小学校 生活科室

出席者：松江市長	上定昭仁
松江市教育長	藤原亮彦
松江市教育委員	塩川寛、大谷みどり、原田順子
学校関係者	揖屋小学校 校長 池田哲也
市長部局	理事 松浦徹
	政策企画課長 井原崇博
	政策企画課政策係長 周藤はるみ
	市長公室主幹 山内巧
教育員会事務局	副教育長 藤原雅輝
	副教育長 川上諭
	教育委員会次長 大谷晶子
	学校教育課長 後藤幸広
	学校教育課教育指導官 米原哲治
	学校教育課 ICT 教育整備係長 石倉陽
	学校教育課総務係長 岡野敬祐

○事務局 川上副教育長

それでは皆様お揃いですので始めさせていただきます。

本日は御多用のところお集まりいただきありがとうございます。これより令和 6 年度第 2 回松江市総合教育会議を開催いたします。

それでは開会にあたりまして上定市長から御挨拶をお願いいたします。

○上定市長

皆さん改めましておはようございます。

今年度第 2 回目の総合教育会議ということで、教育委員の皆さんも揖屋小学校にお越しいただきまして誠にありがとうございます。

何を隠そう私の母校でございまして、ここから歩いて 10 分かかりません。

私が小学生のときには当然 ICT 教育はなく、自戒の念を込めて言えばふるさと教育もほぼなく「勝手に神話を学んでおけ」という感じだったので、シジミ取りや松江城に登るという授業は全くございませんでした。

私は 4 年生から 6 年生まで同じ先生に習っておりまして、その先生は理科の先生で、同時に小学校のバレーボール部の監督でもありました。理科の授業はものすごくて、理科室で「ろうそくは何で火がつくのか」というのをみんなで考える授業をしました。6 年生だったと思いますが、模造紙を敷いて、そこに「蠟が気化して、それに火がついて」とか想像しながら描いた絵を、研究授業で私が発表している写真が今も残っています。そういうのを今になぞらえると、今回見るラーニングコモンズのようなところでグループディスカッションやプレゼンテーションをするという機能だと思います。

松江市も小・中・義務教育学校に 1 人 1 台端末を配備し、各教室、理科室に 765 台の電子黒板を配備し、有効に活用することで、我々が模造紙に書いてプレゼンテーションをしていたことがやりやすい環境になっているであろうということと、ネット環境もあるので、図鑑を持ってきて辞書で調べるということもやりやすくなっているし、表現や理解がしやすいビジュアルが用意されているといった点では優れてきていると思います。

ただ一方で情報があり過ぎることによって、何でも受け入れると正しくない情報もあるわけで、小学生がプレゼンテーションをするのを見させていただいたときに、出典を書かなければいけないというのは皆さん何となく分かっているのですが、出典にウィキペディアと書いてあったことがあり、ウィキペディアが本当に大丈夫なのかというところはなかなか思いが至らないということも気付いたりしております。

そういった今の時代に合わせた中で最適な教育の在り方というのは、結論があるわけではありませんが、この揖屋小学校に設置したラーニングコモンズ「ひらめきルーム」は、島根県内では初めての取り組みとして、従来の図書館・自習室というだけではなく集団での共同の教育の場ということで設置したものでございました。私も完成してから来たことはありますが、まだ授業は見ておりません。今日は 5 年生の国語で食品ロスを取り上げるということで、私もどういった授業が展開されているのか、児童がどういった目の輝かせ方で、どういうひらめきを持ってこのラーニングコモンズを使っているのかといったところに大変興味を持っております。

教育委員の皆様からも忌憚のない御意見をいただきまして、今回まだここだけでございますので、今後の展開についても是非皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○事務局 川上副教育長

ありがとうございました。

本日は、ラーニングコモンズ「ひらめきルーム」を活用した教育の推進についてをテーマに、授業を視察していただいた上で、本市教育の課題や目標を共有し、本市教育行政の一層の充実を目指して意見交換をしていただきたいと存じます。

本日の出席者につきましては、お配りしております出席者名簿及び席次表で御確認ください。

このあとは、ラーニングコモンズに移動し、授業の様子を御覧いただきます。

その後、この会場に戻り、掛屋小学校及び教育委員会からの説明を挟み、意見交換に移らせていただきたいと考えております。

それでは、視察に先立ちまして、本日の内容について学校教育課から説明いたします。

○事務局 後藤学校教育課長

本日の総合教育会議の趣旨・目的、そして、このあと見ていただく授業の概要について、少しだけ説明をさせていただきます。

まず、今回の総合教育会議の目的ですが、松江市で初めて整備したラーニングコモンズ「ひらめきルーム」を活用して行う授業を見ていただき、他校へ水平展開する手段や手法の検討を行うとともに、もう1点、情報活用能力育成の観点から、正しい情報を見極めることの大切さに関する教育について広く意見を交換していただく機会を持ちたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、令和6年度第2回総合教育会議意見交換用資料を御覧ください。カラー刷りの1枚A3縦のものとなります。

まず1番。本日の公開授業ですが、5年1組の国語科の授業を見ていただく予定です。授業者は岩成亜由美先生です。単元名は、「資料を見て考えたことを話そう」。全7時間授業の単元となっております。

学習の概要ですが、食品ロスに関する資料を読み、資料と関連付けながら自分の考えを構成して話すことを目指した学習になります。

下の図、カラーで描いたものですが、7時間授業の大まかな計画を示したものです。導入で「単元を見通す」、そして「発表を目指して取り組む」、最後に「振り返る」という流れで学習が進んでいく計画となっております。

そして、本日の授業は、その3時間目にあたる時間となります。こどもたちの本時のめあては、「食品ロスに関する資料を本やインターネットから探し、自分の考えを明確にしよう」とし、資料を探し、情報収集をしたり、友達と情報を共有する、こういった学習の様子を見ていただく予定にしております。

続いて、資料1として4枚綴った資料を配付しております。その内容について、少し説明をさせていただきます。

1枚目ですが、本日の公開授業のしおりとして、授業者である岩成先生に作成していただいた学習指導案ということになります。

2枚目、3枚目、カラー刷りのものを準備しておりますが、これは、こどもたちが使用している教科書のコピーをしたものになります。こういった教科書を用いながら授業を進めているというものです。

最後に4枚目を御覧ください。これまでこどもたちは1時間目、2時間目と授業をしていますが、1時間目、2時間目にやってきた学習の内容、そして、本時がどのような授業になるのかというものをまとめた資料となります。少し詳しく説明をさせていただきます。

1時間目の学習課題と学習の見通しを持つ場面では、食品ロスについて、自分が知っていることを全体で共有したり、教科書の資料を眺めたりすること。そして、この単元の学習で目指すゴールは、食品ロスに関する資料を関連付けながら、自分の考えを述べる、発表することであるといった学習の流れを確認する時間となっております。

そして、1時間目の後半から2時間目にかけては、教科書に示されている資料1から10までの資料を1つずつ取り上げて、資料を見て分かったことや気づきを共有してっております。

その後、2時間目の後半です。これまでの学習から、食品ロスをテーマに自分が何を伝えたいか、食品ロスのためにはどんなことができるのかを自分なりに考える時間をもっております。

この場面では、自分の考えを各自がタブレット端末を使い、ウェブ上、Teams のホワイトボード機能で共有していききました。同じ考え・意見を集約したものが、下のカラー刷りで 6 種類の色で書いているシートとなります。このように大まかに分類すると、こどもたちの考えや意見は 6 つに分けることができたという状況が分かります。

ここまでの授業というのは当初 2 時間の予定でしたが、なかなか計画通りには進まなくて、実際には+αと書いていますが、もう 1 時間ぐらいしっかり学習を深めて今日を迎えるというような状況です。

続いて、本時の内容になります。こどもたちは、こうした学習の中で、自分が更に興味のある内容についてこどもたちの考えを分類すると、そこに挙げております 6 つになります。「食べ残しをなくすとよい」「賞味期限と消費期限を意識するとよい」「買い過ぎないようにするとよい」「余った食材を有効活用するとよい」「好き嫌いをなくすとよい」「冷蔵庫を整理整頓するとよい」と、こうした自分の考えを更に補完するために、インターネットや図書資料を基に情報収集を行っていきます。

その際、自分が知りたい情報を調べたり友達と情報を共有したりしながら、自分の考えを明確にしていく姿が見られることを本時では期待しております。こうした視点でこどもたちの学習活動を見ていただきますと喜びます。

なお、本日はラーニングコモンズの学習スペースにグループごとに机をセットして学習を進めていき、各グループのミニホワイトボードにテーマや調べたことが書き込まれていきます。こうした視点で見ていただくのも良いかなと思っております。

また、3 枚目の資料を見ていただいて、3 時間目の右の欄には、予想される児童の学習活動を記載しておりますので、こちらも参考にいただければとも思っております。

今日は、全部で 7 時間授業単元の 3 時間目になります。こどもたちは、最終的に発表するという目標を持っておりますので、今日はこうして調べる様子を見ていただいて、また後日録画をさせてもらい、皆さんに当日の発表の様子も見ていただければと思っておりますので、御承知おきください。

それでは、以上をもちまして説明とします。

○事務局 川上副教育長

御質問等あろうかと思いますが、間もなく授業が始まりますので、意見交換の際に

お願いいたします。

それでは、視察に移ります。9 時 40 分から授業が始まりますので、速やかに御移動をお願いいたします。

.....ラーニングコモンズ視察中.....

○事務局 川上副教育長

それでは、ラーニングコモンズ施設の概要につきまして、御説明を教育総務課からいたします。お願いします。

○事務局 大谷次長

ラーニングコモンズ「ひらめきルーム」を活用した教育の推進についてということで、教育総務課からは、ラーニングコモンズ施設の概要を御説明したいと思います。

こちらに書いておりますが、新しい時代の学びを表現する学校施設、揖屋小学校ラーニングコモンズ「ひらめきルーム」でございます。

このひらめきルームという名前ですが、名付け親は市長でございます。

○上定市長

私は選択しただけで、最初から案としてありましたので。

○事務局 大谷次長

案は教育総務課でいくつか御提示をしましたが、こどもたちがハテナをみんなで一緒に考えて、アイデアをひらめいて、分からないことにチャレンジする場所にしてほしいということで、ひらめきルームという名前を付けたところでございます。

今、揖屋小学校にこのラーニングコモンズを整備していますが、そもそもこういう整備をすることに至った経緯を簡単に説明したいと思います。

中央教育審議会は、平成 31 年 4 月に、文部科学大臣から新しい時代の初等中等教育の在り方について諮問されたことを受け、議論を進め、令和 3 年 1 月に答申を取りまとめております。

答申では、社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきた中で、2020

年代を通じて実現を目指す新しい時代を見据えた学校教育の姿を令和の日本型教育とし、多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない個別最適な学びと、これまでの日本型学校教育において重視されてきた協働的な学びとを一体的に充実することを目指すとしております。

個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実するためには、学校教育の基盤的なツールとして ICT は必要不可欠なものであり、教育 ICT 環境の拡充も重要となっております。

令和元年度の国の補正予算において取り組みを始めました GIGA スクール構想、これによりまして、児童生徒向けの 1 人 1 台端末と通信ネットワークの整備が整ったところでございます。

この 1 人 1 台端末の実現によって、学びのスタイルも大きく変容をいたしました。図で書いておりますが、従来は 1 つの空間で一斉に黒板を向いて授業を受けるスタイルだったものが、例えばタブレットを活用して教室内外で個別に学習をしたり、クラウドや図書を活用して友達同士で学習をしたり、多目的スペース等を活用したグループ学習をしたりと、様々な学習のスタイルというものが実際に行われるようになってきているところです。

こうした ICT 機器の活用等により変容した学びのスタイルに応じた学校施設の整備に対する取り組みも求められるようになってまいりました。「紙と黒板中心の学びから、1 人 1 台端末を文房具として活用し多様な学びが展開されていくように、その基盤となる学習空間も、画一的・均質的なものから柔軟で創造的なものに転換していく必要がある」と。これは、有識者会議「学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議」の最終報告の中で述べられております。

この最終報告で示す新しい時代の学びへの先進事例の 1 つといたしまして、読書・学習・情報のセンターとなる学校図書館をラーニングコモンズとした事例が取り上げられております。

東出雲町は、合併前より図書館教育に特に力を入れてきているということもありましたので、その特色を生かしまして、掛屋小学校において図書館を学校の中心に据えるラーニングコモンズの考え方により施設整備を行い、松江市初の取り組みを行うことといたしました。

皆様にも御覧いただいておりますが、「多機能な ICT 機器が整備された学習環境」

「タブレット、ホワイトボード等が整備された協働学習スペース」「グループ学習のほか多用途に利用できる自習室」また、「様々な空間や家具が用意され、場が選べる」「自由な読書・学習空間」「調べる、まとめる、発表するなどの学習活動を効果的・効率的に行うことができる」それから、「どの教室からも利用しやすいように図書館を学校の中心に配置」。こういったことがラーニングコモンズの特徴というように記されています。

資料が1枚、A3でカラー刷りのものをお配りしております。これが昨年8月にラーニングコモンズが完成しまして、内覧会を行ったときにお配りをしている資料でございます。

説明はその際にさせていただきましたので、今回は割愛をさせていただきますが、揖屋小学校の長寿命化改良工事に併せてラーニングコモンズを整備したという経緯について御説明をさせていただきました。

教育総務課からの説明は以上でございます。

○事務局 川上副教育長

続きまして、ラーニングコモンズの活用状況について揖屋小学校の池田校長より説明をいただきたいと思います。

○池田校長

先ほど教育委員会事務局から説明のあったようなねらいのある施設を本校に整備していただいた。私は4月に赴任してきて8月からラーニングコモンズが整備されると聞いたときに、ラーニングコモンズという言葉があまりピンとこなくて、職員の中でもラーニングコモンズとは何かというのがなかなか腑に落ちず分からないところがありました。調べてみましたが、先ほど市長が言われたように小学校に配備した例が、県内にはないですし、中国地方でもほとんどないということで、情報が無い状況でした。

そして、調べてみると大学の図書館の多くがラーニングコモンズになっています。すごくすてきで、カフェとかがあって、行きたくなるような雰囲気があります。さすがに小学校にこれはないかもしれないと思うと、どういうものが整備されるのか分からず、手探り状態で2学期から活用を始めたところです。

これは職員に説明するときに使った資料等ですが、従来の学校図書館との違いは、やはり学習センターと情報センターの機能が、今までの図書館以上に強くなるのではないかと考えています。今日のようなグループ学習ができる、協働的な学びが進めやすい。今日は、グループに入っていましたが、あの中に1人だけ人とは違う自分の課題を持っているお子さんもおられました。そういった個別の学びにも対応ができるということです。

今までの情報センター機能だと、図書館に本を取りに行き、教室に持って帰って学ぶという使い方をしていました。しかし、今日みたいにタブレットと本を両方置いて学べる、ひらめきルームに行けば両方が使えるということ。

我々が意識を変えないといけないのは、くつろいで図書を読める場所であることです。今まで図書館では「静かに」「しゃべってはいけない」「座って本を読みなさい」「目が悪くならないように、こうやって離して読みなさい」と言ってきたのが、いろいろなところに座ったり寝そべったりしながら読んでも良いスペースなどもあります。

今までの学校図書館と違うというところや利用の仕方を伝えるために、司書教諭を中心に2学期の最初に、ラーニングコモンズ「ひらめきルーム」を活用する前にオリエンテーションをしました。そのときに使ったのがこの資料です。

クイズ形式を取り入れて分かりやすく説明しています。大きく分けて「読書スペースと学習スペースがあります」と説明しました。読書スペースと学習スペースで違った、別々の使い方の説明をしています。

従来の読書スペースは、やはり「静かに読みなさい」「静かに本を読むところです」と伝えました。そして、学習スペースは対話的な学びを進めるために「その場に応じた大きさでしゃべりましょう」ということで話をしました。「遊ぶ場所ではないですよ」と説明しましたが、結局、こどもたちは使っているうちに学習スペースでも小さな声で本を挟んで対話をしたり、お互いに持ってきた本を比べたりする子たちも出てきています。こどもたちは上手に考えて使えるようになるのかと思っているところで、我々の意識が変わっていかないといけないと思っています。

本日、5年生の授業を見ていただきましたが、授業ではどういう活用をしていくとよいのかという情報がない中で、このスペースを使ってどういう学びができるのか、とりあえず使ってみようということで進めています。

低学年は、以前から週1時間図書館の日、図書館の時間というのを設定していて、

図書館が時間割に入っています。ICT 活用というよりは読書、本に親しむ、本の選び方などというところを進めています。図書館活用については、低学年から基盤をつくっていく必要があると思っています。それ以外で、2 年生では算数の授業で活用していた例があります。三角形、四角形を分けて、「違いは何」「共通のところはどう」というところをグループでまとめていきました。グループごとにホワイトボードを使って「三角形はこういう形」「四角形はこう」「共通するところは何」というのを、ベン図を使って説明をしていました。

外国語活動などで、学年全体で集まった学習や、ジェスチャーなど少し動きのある活動も、教室では机を全部出したりしないといけないのでできませんが、広いスペースを使って活動ができるようになりました。

中学年ぐらいになると、タブレットを持って学習することが増えます。グループで国際理解学習をしたあと自分たちが調べた国についてワークショップのように発表をしました。そういうことができるスペースだと思っています。

学年全体で学ぶ際には活用しています。特に外部から人が来られるときの事前準備とかは教室だとできませんが、ひらめきルームを 2 時間使用すると、準備から学習までできるという良さがあると思っています。

高学年になると、今日の 5 年生もそうですが、やはりグループ学習などで多く使っています。これは理科の「ものの溶け方」。最初に実験したところで気付いたことや思ったことなどをグループごとにまとめて、自分のグループでは次どういう学習をしたいかという学習問題をつくっていく活動です。

今日の 5 年生は、自分たちの学習課題を見つけていくグループ活動をすごく大事にされていて、何について学んでいきたいかということを大事にして今日の授業でも学んでおります。

国語で和の文化についてテーマを決めて調べていく活動をしました。最後はタブレットを使ってポスターにまとめて発信しました。

6 年生は人権問題について、人権意識を高めるためにどういうことをしたらいいのかという調べ学習と、授業公開日には保護者に向けて発信をしました。この様子は電子黒板やホワイトボードにプロジェクターで投影していろいろな場でグループごとにプレ発表をした様子です。

これは、外部から講師を招いてするときに、スペースとしてすごく使いやすく、こ

れは再生可能エネルギーとプログラミング教室をやったところです。スペースが広いので、こういった体験的なブースも準備して、いろいろな学びができました。

昼休みには先ほど言ったように寝そべて本を読んでいる子もいます。実はこの写真を撮るのが結構大変で、私が行くとみんな寝そべるのをやめてしまいます。先ほどまでみんなで寝転んで本を読んでいたのに、私がカメラを構えた瞬間にみんなやめてしまいます。本当はみんなで雑魚寝した感じで本を読んでいる写真が撮りたかったのですが、なかなかその写真が撮れなかった。立ち読みをしているとか、こんなこと前の図書館だとなかなか見られなかった。

図書委員会の人が「ひらめきルームにどんどん来てほしい」ということでいろいろな宣伝をしたり、イベントを考えたりするときにも使っています。

以上のように、まだ手探りで、はっきりこうしたら良いというところまでは至っていません。しかし、研究主任を中心に、どういう活用ができるのかというのをとにかく今年はいくつか使ってみて情報を貯めていこうと。そして来年、その情報を基に、どういうことに有効か、こんな使い方ができるということを少し検証していきたいと思っていますところでは。

以上です。

○事務局 川上副教育長

池田校長先生、ありがとうございました。

続いて、授業における活用の視点、並びに市が取り組むメディア教育について、説明を学校教育課からいたします。

○事務局 後藤学校教育課長

最初にお示しした資料、カラー刷りのこの資料にお戻りいただけますか。こちらの資料で少しお話をさせてください。

真ん中より下のところ、2番の(3) 授業における活用の視点（めざす学びの姿）について、少し説明をさせていただきます。このラーニングコモンズを授業で活用する際の視点として、大きく3つ視点を掲げております。

1つ目は、「自分のスタイルで！」としています。個別最適な学びの展開です。先ほど見ていただいた本単元の授業、食品ロスについても、こどもたちは個々に学習課

題を立てて、インターネットや図書資料という情報収集の手段を自分で選んで学習を進めております。

今回、最終的な目標は発表という形ですが、まとめることや発表することも、自分に合ったスタイルを選択できる学習内容もございます。

このように、こどもたちが主体的に自分のペースで学習を進めていく姿を目指していきたいと思っています。

2 つ目が、「みんなといっしょに！」と書いております。協働的な学びの展開です。ラーニングコモンズには、ひらめきルームという愛称も付けられているように、1 人では気付かなかったこと、友達と考えたからこそ発見できたこと、思い付いたことなど、協働的な学びを展開していくことで、自分の考えを補ったり、深めたり、まとめたりすることができるものと考えております。

本時も友達と一緒に同じテーマで学習を進めていくことによって、そういった深まりが出てくる姿を期待しております。

続いて、3 つ目です。「どっちがほんと？」と書いておりますが、現代的な教育課題である情報活用能力の育成について挙げております。今、こどもたちの身の回りにはメディア機器があふれています。また、今日も使っていましたが、こどもたちは1人1台のタブレット端末を持っております。

このように、こどもたちにはインターネットを通じて日常的に大量の情報に簡単に触れることができる環境があります。そこで、資料 4「市が取り組むメディア教育」という資料を御覧ください。

本市では、ICT を活用した教育を積極的に推進する一方で、電子メディア機器との上手な付き合い方、インターネット上に混在する真実と不確かな情報を正しく評価し利用する情報リテラシー、そして人権・知的財産などを尊重し、情報社会で適正な活動を行う情報モラルの醸成を目指したメディア教育を推進しているところであります。

資料の下のところですが、本市で行っている主な取り組みとして4つ挙げております。メディア学習の実施、講演会・研修会の実施、情報モラル教材「GIGA ワークブック」の活用、「松江市『子どもとメディア』に関する協議会」の開催、こういった取り組みをしております。

ラーニングコモンズにおいては、瞬間的に発信されるインターネットの最新の情報と、一方で十分に校正を経て発行される書籍の両方に触れることができる環境が整え

られ、メディア教育の充実と併せ、こどもたちが情報をより巧みに活用する力を付けていくことを目指しております。

以上、説明をした授業における活用の3つの視点が相互に関連しながら、このラーニングコモンズという学習空間を十分に活用することで、児童生徒の主体的で深い学びの実現を目指してまいりたいと思っております。

学校教育課からの説明は以上となります。

○事務局 川上副教育長

それでは、意見交換に移りたいと思いますが、その前に会場のセッティングを変更したいと思いますので、少しお時間をいただきます。

それでは、意見交換に入ります。授業の様子 の視察や先ほどの説明を踏まえまして、御質問や御意見などございましたらお願いいたします。

上定市長、毎回最初で申し訳ありませんが、よろしくお願いいたします。

○上定市長

少し感想めいておりますが、私も申し上げたとおり、ラーニングコモンズ自体は竣工したときにインフラとして見て回っていましたが、今日使われているのを初めて見ました。

少しICT教育の話と絡むのですが、どのように情報を得て、それを形にしていくのかというのを見ていたところ、我々がやっているようにインターネットにアクセスしてYahooやGoogleなどから検索する人もいましたが、どちらかというと、最初は検索でしょうが、写真やグラフなどの絵が並んでいて、ビジュアル的に「何かこれは面白そうだな」というのをつついて、大きくしたものをパワーポイントに貼るということを繰り返されているのが印象的でした。それを横の友達に見せて、「こういうのがあったよ」「これはかわいいよね」など、そういうのも含めてですが。

今日はまだまとめにかかるところではないので、それぞれが自分で見つけて、それをパワーポイントにしているというところでしたが、6つくらいに分かれたグループごとにディスカッションをした上で、電子黒板などを使ってより分かりやすくしてみんなで発表していくというプロセスが垣間見えたような気はしました。

私が少し気になったのは、インターネットで情報を取れるのは分かりますが、通常

の図書館は本がたくさんあったので、それがどのように使われているのかというのを見ていたところ、最初みんなで見えていたときは瞬間的にはありましたが、そのあと使われていませんでした。

これはどういうことかと思って岩成先生に聞きました。そうしたら、本は前から用意されていて、かつ教室に置いているらしいのです。ですから、今日初めて見た本はなくて、みんな休み時間とかにも見ているらしいのです。かつ、例えば、グラフがその中に載っていきまして、「そこに数字がありますが、それを自分で打ち込んで、その数字をデータにしてパワーポイントに使うのですか」と聞くと、「写真を撮って、インターネットと同じように使うことができます」と言われました。「では、それを教室とかで見えていたら、休み時間にもできるのですか」と聞いたところ、「立ち上げるのに時間が 10 分かかるから無理です」と言われたのです。早く更新しましょう。ですから、更新したら抜本的に改善するはずです。

少し話が派生しますが、今日は本がたくさんありましたよね。「これはどうやって集められたのですか」と聞いたところ、これが松江市でございまして、司書が必ず各学校にいるので、「司書がその授業に合わせて中央図書館など普通の図書館から集めてきて、人数分以上のものを必ず用意するので行き渡らないものがない」と言っていたのです。松江の元々の司書がいるという環境が、図書教育の中でラーニングコモンズをうまく生かすというところにつながっていくところが見えました。

ここからが少しだけ問題提起で、一般論になってしまいますが、今日見えても子どもたちは結構元気で、みんな自分たちからどんどん調べて、隣の子と話してというところが伺えたので、そういう社交的で能動的に自分から発信していくタイプの子にはあのような授業はとてもやりやすく、ヒーローになれるきっかけになると思うのです。

ただ一方で、やはり内向的で、しっかり授業は聞いているのですが、受け身で、言われたことは分かるが、それを自分から表現していくというのが苦手な子もいます。そういう子にどのようにスポットライトを当てるといえるのか、もちろん無理やり発表の機会があると学びの機会にはなるとは思いますが、どちらかというとあまり外向きな表現が上手ではない、引っ込み思案だったりする子に、ラーニングコモンズをどのように活かして活躍できる場を与えて、自信を持って「自分もプレゼンをしてみよう」というようになるのかということが課題といえるのか、少し分からなかったとい

うのが正直なところなので、むしろ先生方で、もしそういった御見識がおありになる方がいれば、池田校長先生もそうですが、また教えていただければと思いました。

以上でございます。

○事務局 川上副教育長

ありがとうございました。

続きまして、教育委員の皆様、いかがでしょうか。

それでは原田委員、お願いします。

○原田委員

ありがとうございました。貴重な体験をさせていただきました。

使っている場所を初めて見させていただいて、教室にある机と違って大きいということで、作業がしやすいだろうと思いました。本までは近くに置けないかもしれないですが、グループの中で本も開きながらというところが良かったと思いました。

インターネットにつなげるのも、前はなかなか開かないということがありましたが、それもなくサクサクとネットにつながっていたので、その辺りも改善されていて良いと思いました。

先ほど市長がおっしゃった 10 分立ち上げにかかるという話で、学校に来たらまず立ち上げておいて、スリープにしておけば全然時間はかからないのではないかと考えていますが、1 回 1 回電源を切っているのかなというところが少し気になりました。

一番思ったのは、大体と言ったら悪いですが、みんなメモを取らないと言いますか、例えばノートを置いて、「自分の考えはまずこうだ」というのをいつも見られるようにしておかないと、自分が結局何を考えていて何を探しているのかというのが分からなくなってしまうのかなと。いつも自分がそうなのですが、調べていくうちに横道に逸れていって、結局自分が何をやっているのか分からないという状況に陥るということもあって、そうならないために自分が今何をやっているのかを明確にする必要があるのではないかと考えて。やはりタブレットだけではなく紙があって、きちんと「自分は今これをやっている」「自分の意見はこうである」「これに対しての資料が今ほしい」とか。今はまだ 3 時間目ということで、資料を見ながら自分の考えを掘り下げるといえるか、自分の考えを見つけるという段階なので、ひたすら資料を見る時間なのかなと思

ったのですが、その前に一応今の段階での自分の考えを持つというのは大事なのではないかなと。やはりそれは個人でしっかりと「今こういう考えだ」というのを自分でも分かるように言葉にしておくというのが大事なのではないかなと思いました。今は資料を探す時間とかでしたら、この資料をどこで探したか、この資料をあとになって前の資料に戻れるように保存をしているのか、お気に入りとかに入れているのか、その辺りも少し気になって、使った資料が何か分からなくなってしまうということにならないのかなという不安がありました。

既にプレゼン用の資料をつくっている子もいましたが、やはり今はまだそこではない段階。それをやり始めると、資料をつくることに専念してしまっ、きれいな資料を探しまくるとい、少し方向が違うと言いますか、目的が変わってしまうのではないかなというように思ったので、やはりそれは「今はまだつくる段階ではない」のように間がきちんとあったほうが良いのではないかなと思いました。

やはり本を読む子が少なかったというのもあって、写真を撮って発表で使う子が最終的にどれぐらいの割合でいるのかというのを、また録画で見せてもらうというところもありましたが、その辺りもまた見てみたいと思いました。

借りて帰ったり、時間をかけて本を読むのが一番効果が出るといいますので、教室でも見られると今おっしゃっていたのですごく安心したのですが、そういう時間は必要かなというように思いました。

以上です。ありがとうございました。

○事務局 川上副教育長

ありがとうございました。

続いていかがでしょうか。順番でよろしいですか。塩川委員、お願いします。

○塩川委員

今日はありがとうございました。

初めてラーニングコモンズでの授業を見させていただきましたが、そもそも揖屋小学校に設置されたということはすごく意味があることではないかと思っています。

島根県自体が全国に先駆けた読書県で、その中でも松江市、松江市の中でも旧東出雲町では、全国的に有名な学校図書館教育に随分前からしっかりと取り組んでいただ

いたところに、新しくラーニングコモンズという施設ができたということで、非常に注目をされているのではないかと思います。

今までいわゆる学校図書館教育ということで一生懸命取り組みをされて、その基礎とか土台がしっかりしたものがあるのではないかなと思います。この強みは今までのものを生かすというところがキーポイントになってくるのではないかと思います。

今日の授業を見ていますと、皆さんおっしゃるように、インターネットを活用して検索するという時間だったとは思いますが、今お話を聞くと、教室でも図書館の本等を活用しているということで安心しましたが、その辺りの組み合わせが非常に難しいなと思いました。

学校も子どもたちも試行錯誤しながら、時代に沿ったものが最終的にはできるのではないかと思います。最後の発表のところを録画で見せていただくということで、どのような形でまとまっていくのか楽しみにしていきたいと思います。

子どもたちもインターネットやタブレットに親しみ、まとめ方が上手だなと。私にはとてもできないなと思いながら、テクニク的にはかなりそれぞれ身に付けていると思います。

子どもたちとの学び合いと言いますか、その辺りが1時間の中でも少し意図的にあると良いと思いました。それから先生も、あとであったかもしれませんが、今の時間の共通の課題や学び方のような全体指導もときどきあっても良いと思いました。

感想です。

○事務局 川上副教育長

ありがとうございました。

大谷委員、いかがでしょうか。

○大谷委員

今日は貴重な機会をつくっていただき、ありがとうございました。授業者の先生がおられないので、直接言えないのですがありがとうございました。

私は夏に伺えなかったのですが、今日初めてラーニングコモンズを見せていただき、本当に良くできている施設だなと思って感心して見させていただきました。今日の話を伺って、東出雲だからという意味合いも非常に強いことを学ばせていただきました。

ありがとうございました。

こどもたちはすごく楽しそうに学んでいて、今日の校長先生のお話を伺っていますと、2 学期から活用を始められて、手探りながらもこどもたちは上手に使っているなというように見せていただきました。これからどんどん先生方もこどもたちもまた新しい使い方をつくっていくのだろうなと思って見せていただきました。

司書さんがちょうどおられたので、「ラーニングコモンズができてどうですか」と伺ったら、「必ずしも図書を借りている数が増えたとは限らないが、来るこどもは増えました」とおっしゃっていて、とても大事なことだと思って伺っていました。私もくつろぎスペースはとても良いと思いましたし、調べ学習だけではなくて、寝転がってでもこどもたちが本に触れる機会が増えていくこと自体がとても大事なことはないかというように見ていました。

今日はラーニングコモンズと ICT 教育と両方ということなので、今日岩成先生が最初のところで電子黒板と黒板の代わりになっているホワイトボードをすごく上手に使い分けておられたなと思って。電子黒板は一過性なので、どんどん情報が出てくるのですが、ホワイトボードには 1 時間ずっと残しておく情報を上手に置いておられて、めあてやインターネットと本の違いもきちんと貼っておられて、これから一過性の情報を扱うものと、1 時間残しておきたいものを使うことが教員にも求められるだろうと思って見ていました。

ラーニングコモンズは海外では見たことがあったのですが、校長先生がおっしゃっていたように、大学では特に私立を中心に取り入れられてはいるのですが、少し調べていくと、1990 年代にアメリカの大学の図書館に IT 関係のものを入れてきたことが最初で、10 年後に共同学習の場として重視されるようになってきたというところがあります。これからどこでも ICT が使えるようになった場合、ラーニングコモンズと教室の使い分けをどのようにしていくのか。図書館機能を備えているので、本があるというのは大きいと思いますが、今日見られたようにこどもたちはそこまで本を使っていなかったとなると、今日の活動で、例えば教室の机が移動できるものになっていった場合にラーニングコモンズと教室の使い分けをどのようにして考えていけばいいのか。スペースが大きいとか使いやすいというのはあると思うのですが、その辺りのところも上手に使い分けができると良いと思いました。

こどもたちの調べ学習を見ていると、市長さんがおっしゃったように、読むという

より図を取ってくるこどもが多くて、それはそれで大事だなと思うのですが、こどもたちはキーボードの使い方がすごく速い子とすごくゆっくりの子がいて、ICT 教育を考えたときに、来年度から少しずつコンピュータ・ベースドになると聞いている。そうすると、ただ単に調べるだけではなくて、こどもによっては打ち方も ICT 教育を考えると慣れていく必要があると思いました。

内向きなこどもさんという話について、私は、先に自分で Chromebook とかに動画を入れておいて発表するとか、そこに既にいろいろな情報を入れておいたものを評価してもらうとか、そのような方法を英語などでは使っています。

以上です。ありがとうございました。

○事務局 川上副教育長

ありがとうございました。

藤原教育長、いかがでしょうか。

○藤原教育長

まず、池田校長先生には大変な思いをしながら取り組んでいただいていることに感謝を申し上げたいと思います。誰も分からない、誰も見たことがないことを初めてやってもらうという取り組みをしてもらいました。

なぜこういう取り組みをするのかということについて、1 つは、長期間この学校の工事をするということもあったので、こどもたちに何かプレゼントをあげたいという思いがあって、このハードの施設を整備するということにしました。東出雲町のこれまでの教育を尊重するというので、こういう取り組みをしました。

先ほどから出ていますように、大学での事例はありますが、小・中学校、それから公立の学校になると、更に事例がなくなっていった、参考になるものがなかなかないというのがあります。

教える側も教えられる側も、どういうイメージで使ったら良いのか映像で見るというのが一番有効だと思いますので、「YouTube とか、そういうものを探してくれ」と言っておりますが、いまだ有効なものが見つからないというのがあります。

その中で、「ここまで来たら、先進事例をつくろう」という気持ちに変わってきたので、ここでやっていることがこれから日本をリードするようになっていくと良いなど

思っているところです。

試行錯誤は良いと思いますので、どんどんいろいろなことにチャレンジしていただいて、「これが揖屋スタイルだ」という形をつくっていただければ良いと思います。

このラーニングコモンズを入れようと思ったもう 1 つの理由は、学習指導要領が大きく転換をして、いわゆる「個別最適な学び」というものが書かれたわけです。それは、今までのように 1 対 35 で一方的に先生がティーチングするスタイルから、先生がファシリテーターになる授業に大きく変更が求められているというところです。

どうやってそれぞれの児童生徒の意見を引き出していくのかということと、ファシリテートをして上手に会議を回して発表までつなげていくような能力が先生にも求められているという時代が変わってきているわけです。

その中で、こどもたちは予測困難な時代をどうやって生きていくかということ、自分で課題を見つけて、それを自分の力で解決していく能力をどうやって身に付けていくのかというところがポイントになってきます。

その中で、溢れかえる情報の真偽を自分でどうやって確かめ、自分の意見としてまとめていくのかという非常に重要な能力になっています。

最近気になっているのは、こどもたちのボキャブラリーの無さです。言葉の数でいうと 10 個もないような、少し悲しくなるプレゼンしかできない、そういう現場を見てきたこともあって、もう少しきちんと自分の言葉で自分の思いが述べられるように、プレゼンテーション能力というのを磨いてほしいというところがもう 1 つ私が考えているところでございます。

いずれにしても、教育委員会の中では、玉湯のリーディング DX と揖屋小のラーニングコモンズ、それからボタンねっと、そういったところが特色ある取り組みだと思っていますので、こういう形でどんどん松江市の教育が充実していくように、いろいろな取り組みができれば良いというように思っています。

やる中でいろいろな反省点が出てくると思いますし、何か相談があったら、また教育委員会に言ってください。よろしくお願いします。

以上です。

○事務局 川上副教育長

ありがとうございました。教育委員会で考えていきたいこともございましたが、今日の授業に直接関わるところで、揖屋小学校のほうで今後考えてみたいということもあろうかと思います。突然ですが校長先生、これまでの話を聞かれて何かあれば。

○池田校長

いろいろ感想と御指摘いただいたところですが、実はまだ取り組みを始めたばかりで、今日の授業を見ながらも「どんなことができるかな」と考えていました。御指摘いただきましたように、メモをとることも意識させたいと思いました。また、グループの課題はホワイトボードに書いてありますが、個々の学習課題を意識できるようにすることについては、御意見を参考にしたいと思います。受け身のこどもさんはどうしてもいて、だからこそペア学習やグループ学習という小さな単位で自分の意見を言えるようにするということを繰り返しています。そこで認められると、もっと大きな単位でも発表ができるようになるのではないかと捉えているところです。

私がひらめきルームでやってほしいと思っていることがあります。4年生くらいになると、家庭でも普段から使っているので使い慣れているということもあり、こどもたちは完全にタブレット頼りになっています。タブレットを使って得た情報を図書と見比べたり、情報の真偽を確かめていったり、出どころを考えていくということを大事にしてほしいと思っています。また、自分の課題がなかなか見つからない子は必ずいて、多分今日も自分の課題がまだ明確になっていない子がいたかもしれません。そんなとき、インターネットだと自分が調べたいことがピンポイントで出てくるので、その考えからブレることができないですが、図書はめくっているうちに「おやっと思う」発見があると思っています。自分の課題が明確になっていない子たちが図書を見て、新たな課題を見つけたり、課題の再確認をしたりして欲しいと思っています。

低学年は図書の時間を設けていると言いましたが、やはり図書を活用する力の基盤をつくっていくこと。特に4年生くらいまではしっかりやって、5、6年生でICTと図書の情報を両方を比べたり、活用したりすることをやっていけたら良いなと思っています。

また参考になる情報や御指摘があれば生かしていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○事務局 川上副教育長

市長、お願いします。

○上定市長

池田先生ありがとうございました。

手探りで進められているところなので、今から質問させていただくのですが、まだ解がないようであればそのとおりにお答えください。

これからラーニングコモンズの使い方が少しずつ確立してきたり、効果などが少し見えてきたりすると、どの授業、どの教科のどのテーマをラーニングコモンズでするかという判断が出てくると思います。例えばですが、今日の授業は、岩成先生が「この食品ロスにはラーニングコモンズでディスカッションするのが良いのではないか」としたということなのか、それとも誰かが、「これはラーニングコモンズ」「これはそうではない」「ラーニングコモンズに手を挙げる人がいっぱいいたら、少し時間繰りを調整しないとな」など、将来はそういうになると良いとは思いますが、その辺りは誰が判断したり差配したりしているのか、今はどういう感じですか。

○池田校長

ラーニングコモンズを使う使わないは各担任というか学年部で判断をしています。

部屋が1つしかないので、今は先着順になっています。カレンダーに使用予定を書き込むようにしています。ほかの学年の授業が入っていたら、入れ替えたりとか、調整をして使っているところです。

○上定市長

少し変な話ですが、ラーニングコモンズをこれから使っていただきたいので、そうすると先生も勘所といいますか、使わずしてラーニングコモンズを活用できるかできないかも分からないと思うので、先生の強制力も若干発動されて、「ラーニングコモンズを使え」という感じで声をかけられているのか、それとも、先生方にとって「こういう施設があったら、結構やりたいことがあったから私も使ってみよう」という感じなのか、その辺りはどうでしょうか。

○池田校長

強制力をかけているのは、「どういう単元で、こういう活動をしました。」「メリット、使いやすさはどんなところか。」という記録を残すことにしています。それを「報告してください」ということを研究主任から働きかけています。それ以外は特に先生方に任せています。

○事務局 川上副教育長

皆さん 1 回ずつは御発言いただきましたが、このあとまだ少し、30 分までございますので、あとは御自由にと 생각합니다。

○原田委員

質問ですが、ラーニングコモンズの定義について、そういう学習の仕方という意味合いで使っているのか、部屋の名前としてラーニングコモンズと言っているのか、子どもたちはあの部屋のことを「ひらめきルーム」と言っていますよね。図書館がひらめきルームになったみたいな意味合いで、「図書館」とそのまま言っている子もいるという感じですか。

○池田校長

そこは多分子どもによって違います。特に 1、2 年生は図書館の日がずっとあるので、「図書館」と言う子もいるし、高学年などは「ひらめきルーム」と言う子が多いかなと思います。それこそ図書館部分の読書スペースは「図書館」、学習スペースを「ひらめきルーム」と言っている子もいます。そこはあまり統一していません。

○原田委員

先生はどちらなのですか。

○池田校長

教員は一応「ひらめきルーム」と言って、学習スペースと図書スペースと言うようにしています。使用票も学習スペースと図書スペース。同時に違う学年が使っているときもあります。

○原田委員

ラーニングコモンズというのは、部屋の名前としてはあまり使わないということですか。

○池田校長

多分、こどもには「ラーニングコモンズ」というのは言いにくいので、市長に付けていただいた親しみやすい名前を使っています。教員は「ラーニングコモンズ」と言うことがあります。こどもは「ラーニングコモンズ」と言いにくいので、あまり言う子はいないと思います。

○原田委員

そもそもとして、施設のことを言うのですか。部屋の名前をラーニングコモンズと言うのですか。

○上定市長

ラーニングコモンズが外身なのか中身なのかみたいな話ですよね。渾然一体としておりますね。

○原田委員

どういう意味で使っているのかなと。「ラーニングコモンズに行きます」と言っているから、ラーニングコモンズは部屋の名前なのかと思って。

○上定市長

大谷先生、コモンズがラーニングにかかっているのですか。

○大谷委員

コモンズは共同なので、共同で学ぶという意味です。そこに学習スペースと IT の環境で共同学習ができる。先生が説明されていたとおりだと思いますが、ラーニングコモンズ自体、施設というか、そういう場所を示すというように考えられているので

はないかと思います。図書館のような感じではないかなと思います。

○原田委員

1つの言葉が両方の意味を持っている感じですか。

○大谷委員

そうではないかなと。少なくとも大学でラーニングコモンズと言ったら一緒に学べる場所で、図書館に IT がしっかり入っていて、動く机があるような場所をラーニングコモンズと言っています。

○原田委員

ありがとうございます。

○事務局 川上副教育長

そのほか御感想、御意見、質問、何でも構いませんので、いかがでしょうか。

○上定市長

先ほどくつろぎスペースがありましたよね。実は御存知かもしれませんが、改装した中央図書館も外でブラウジング・スペースと言って、インターネットのブラウザのブラウジングですが、本を借りるのではなくて、お茶を飲みながらも見られるような場所があります。昔だったら考えられなかったようなスペースをつくることによって、カチットした雰囲気だけではなく、また、中央図書館の場合は入り口すぐのところにこどもたちのスペースがあるので、最初からこどもたちの声が聞こえます。要は「静寂な感じで勉強に集中するのであれば、奥のほうに行ってください」と。それでも聞こえますが、そういうことも割り切ってみんなに入ってもらっているという感じがあります。

従来の図書館の在り方が正解ではないので、もう少し柔らかく解釈するというのは、我々にとってみると革新的だし意味があるように思いますが、こどもたちもそういう使い方に少しずつ慣れてきているというようなところがありますか。

○池田校長

写真でも出していたのですが、「くつろいで良いよ」とは言っていますが、「こういう体勢はいけない」ということは言っていないので、そのうち子どもたちは何となく様子を見ながら、いろいろな読み方で良いと思っていますし、そういうのがやりたいなと思ってラーニングコモンズに来ている子もいるので、それは良いのではないかなと思っています。声も学習スペースを使っているときには上手に小さい声でしゃべっているし、教員が「ああしろ」「こうしろ」と言わなくても、子どもたちは使い方を考えるものだと思います。

先月号の公民館報に載せてもらったときに、みんなで寝そべっている良い写真があったのですが、校内で回したら、「この距離で読んだら目が悪くなります」というような指摘があり、確かにそのようなことを思う人もいるかもしれないので写真を変えました。

○上定市長

そうですね。自然な感じではなくなってしまうからね。

○池田校長

その自然な感じが良いと思うのですが、その辺りは統一されていないかもしれません。

○事務局 川上副教育長

そのほか、いかがですか。

○藤原教育長

先ほど申し上げた、学習指導要領で個別最適な学びへの転換が求められているという話ですが、そのことを一番実感できていないのは学校の先生だと思っています。

今まで先生が一方的に「これが大事」とずっとしゃべり続けてきた授業だったわけで、それであれば 35 人の教室でもできます。今日みたいな授業を普通の教室では決してできませんが、学習指導要領はそれを「このような教え方に変えなさい」と言っているわけです。しかし、ハードは対応できていないわけです。

今回、初めてソフトに合わせたハードをつくったわけです。やっとそれが体感的に実践できるような環境ができたというのが現在の状況だと思っています。上の教室の空いたところにフリースペースを2箇所つくりましたよね。それも広いスペースを使ってそういう教え方を実践していただくというのが1つ大きな趣旨となっています。

今、普通の教室でグループワークをすると、何を言っているのか全然分からなくなるので、とても学べる環境ではないと思っています。名称は何でも良いと思いますが、やはりそれが実践的にできるのがそういうスペースであります。自分の主張がなかなか言えない子は、1人でタブレットに向かうというような形も、多様な学びの1つだという位置付けなので、そういう学び方もあります。最終的に、人前できちんと自分の考え方をプレゼンできるかどうかというところを求めていかなければいけないということだと思っています。

学び方が大きく転換している中で、初めてハードが追いついた形のものがこの揖屋小学校のラーニングコモンズだというように御理解をいただければと思っています。

そう1人でずっと言い続けていますが、こうやって初めて皆さんの前で実際の授業が行われましたので、どんどん実績を積んでいただければと思っています。

以上です。

○事務局 川上副教育長

塩川委員、いかがですか。

○塩川委員

少し話が変わるかもしれませんが、最近、読書について危惧していることがあります。それは何かというと、書店が少なくなったとか、なくなったという現実があります。仕方ないことだとは思いますが、こどもたちの読書離れが非常に危惧されるところです。

それを補完するのはやはり公立の図書館や学校の図書館であり、非常に役割が増大していくのではないかと考えているところです。

先ほども言いましたが、旧東出雲町は長い歴史と伝統といいますか、積み上げがあるので、現在もしっかり図書館教育を継続されていると思います。現役のとき、こどもたちが本を嫌いになる一番の要因が、なぜ本を読むのかということを教員が教えて

いないということだと聞いた覚えがあります。教員が読書に対する意識を改めて、再度時代に即したものを捉えながら考えていく必要があるのではないかと思います。

先ほど池田校長先生が言われたように、ラーニングコモンズを活用することはもちろん大事ですが、幼稚園や低学年の間はしっかり本に親しんで、プラスアルファのところで4年生以上のところをしっかりとっていくという方向性がマッチしているのかなと思いました。

○事務局 川上副教育長

ありがとうございました。
そのほか、いかがでしょうか。

○藤原教育長

関連ですが、令和7年度の文部科学省の予算に、公立の図書館と民間の書店の連携事業が新たに盛られました。なぜこういうことが出るのだろうと思って見ていたのですが、松江市内でも、今井書店とお互いが情報を共有しながら、民間の書店で借りた本が返せるなどの本文化を守るための施策が新たに国の政策にも加わっているということです。議会でも質問がありましたが、調べたら公立の本屋というのがあります。市が本屋をつくって本を売っているという事例も何市かありました。

今後、本を手にとって見ることは公立の図書館しかできないというような時代が来るかもしれないという認識を国も持っているということは情報としてお知らせをしておきたいと思います。

私も本が大好きなので、是非とも子どもたち、特に低学年に読書習慣をつけてほしいのです。要は集中力を養うために、是非ともそういう取り組みをしていただければと思いますので、よろしくお願いします。

○事務局 川上副教育長

大谷委員、お願いします。

○大谷委員

今読書の話なので、可能かどうか、良いかどうか分からないのですが、海外の図書

館を見ていると、読み上げ機能のついている本が結構たくさん入っています。多分伊藤忠がこどもがよく読む本に全部読み上げ機能をつけて耳から入るようにしていて、入り口としては、文字を読むのに抵抗があったら聞きながら読む。読み聞かせだと思えますが、入り口的にそういうものがあったら良いのかなというようには思いました。

海外の図書館に行くと、小さい子用に耳で聞けるようなブースが非常にたくさんあって、小さい子はここでお母さんと一緒に聞いたりして、それがだんだん離れていく。文字が読める子は良いのですが、文字が読みにくいから本を読まないという子が耳からだと入るのであれば、それも良いのかなというようには思いました。予算的にそういうものが入るかどうかは分からないのですが、1つの方法としてあるかなと思いました。

○事務局 川上副教育長

ありがとうございました。

そのほか、いかがでしょうか。

原田委員、お願いします。

○原田委員

保護者の関わりですが、例えば国語科の授業の食品ロスについて、今は資料を使ったり、本を使ったりしていますが、家でのインタビューなど入ってきたりはするのですか。この活動が家にどのくらい伝わっているのかということが知りたかったです。

○池田校長

学びの途中に家庭で調べたりする子はいりますが、みんなにそういうことをしてほしいということまでは言っていないのではないかと思います。

○原田委員

食品ロスの「冷蔵庫に関して親に言いたい」というこどもが先ほどいたりしたので。

○池田校長

確かに家で発信したいというようなことを言っている子はいたと聞いているので、

発信の部分では家庭との連携があるかもしれません。

○原田委員

家も混ざっていたら良いなというように希望を言っただけです。ありがとうございます。

○事務局 川上副教育長

そのほか、いかがでしょうか。

市長、お願いします。

○上定市長

情報共有だけですが、先ほどの中央図書館の話で、大谷先生がおっしゃった読み上げと若干似て非なる話です。バリアフリーのコーナーというのを今回大きく入れてまして、その中に弱視とかで見えない方のための大きな活字本というものや、録音の図書や点字図書というのを結構置くようにしたのです。私は評判を知らないのですが、藤原副教育長、もしあれば。

○藤原副教育長

ただ、利用者が限定されています。情報を広く進めなくてはいけないのが課題です。

○上定市長

そういうのも少しずつですが整備を始めているというところがあります。

蛇足ですが、今はタブレット端末がありますよね。電子教科書が搭載できると思うのですが、例えば坊っちゃんとか著作権が切れているものは、電子書籍の会社で契約してタダで見られます。まだ松江市はそういうものまで搭載するような取り組みはしていませんが、こどもたちが使い慣れているタブレットで見たりできるようにも物理的にはできると思います。そういったニーズはありそうですか。

○藤原副教育長

ニーズがあるかどうか分からないのですが、私の勝手な思いは、やはり本になって

いるものに触れることを小学校でしっかりしておいたほうが良いのではないかなと。これももしかしたら古い教員の感覚かもしれないとはっきりとは言えないですが、いまだきそれは当たり前だと言われたらそうかもしれません。

○原田委員

進研ゼミとか Amazon のキッズタブレットとかにも無料の本というのが絶対入っているのです。うちの子もですがやはり読むのです。それを読みだすと、読む癖がつくというか。タブレットを使うということのほうが取っ掛かりが良いといえますか、そこで文章を読みだすと本に行くようになって、こどもも「タブレットより本のほうが楽だ」と分かるのです。うちの子の話ですが、タブレットから本に行ったというのもあります。

○藤原教育長

もう1つの事例としては、こどもが親に読み聞かせするという取り組みをしているところがあります。これはとても良いと思っているので、こどもがまず自分で本を読んで、自分が良いと思ったものを親に向かって読む。親子の時間も取れるので、本を読むきっかけにはなるとあって、そういう取り組みも1つあるかなと思っています。

○事務局 川上副教育長

ありがとうございました。そろそろ終わりの時間になっておりますが、よろしいでしょうか。

今日はラーニングコモンズ、それから後半は学校図書館教育全般、読書についてもそうでした。たくさんの御意見をいただきました。途中でも申し上げましたが、教育委員会サイドで考えていきたいこと、それから、掛屋小学校で考えていかれること、様々な御質問や御提案、御意見があったと思います。ありがとうございました。

それでは、予定しておりました事項をすべて終了いたしましたので、以上をもちまして、令和6年度第2回松江市総合教育会議を終了いたします。

頂戴した御意見を参考にさせていただきまして、今後の取り組みを進めてまいります。長時間にわたり、貴重な御意見をいただきました。ありがとうございました。